

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桜町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

乗鞍岳ーバスで登る百名山ー



乗鞍岳（乗鞍高原から）

コロナ観測所

9月上旬、乗鞍岳（3026m）に出かけた。深田久弥が日本百名山の一つに挙げた乗鞍岳は、最高峰の剣ヶ峰をはじめ、大日岳、摩利支天岳など21峰を包括する堂々たるコニーデ型火山であるが、乗鞍スカイラインのおかげで頂上近くまでバスで到達出来る便利な山になってしまった。新宿からの深夜バスを利用して、早朝乗鞍高原センターに着き、豊平行き一番バスに乗って6時50分、豊平に到着した。標高2700m。恐らく日本最高所のバス停だろう。広い駐車場を囲みシャレたミヤゲ物屋やレストランなどが立ち並び、シーズン中の賑わいを感じられる。ゆっくりと朝食を楽しんだ後7時半、お花畑を抜けて剣ヶ峰に向かう。もう花の季節には遅いが、ウサギギク、タカネスイバ、チシマギキョウなどが目を楽しませてくれた。 コロナ



コロナ観測所

観測所の白いドームを右に見上げながら車道をたどり、30分程で肩ノ小屋。ここから道は登山路になり、朝日岳の山腹を急登して朝

日岳と蚕玉岳の鞍部に出る。目の下、周囲に雪渓を配したコバルト



権現池

色の権現池が神秘的だった。

更に一登りして9時剣ヶ峰頂上。好天に恵まれ最高の眺望。雲

海に浮かぶ槍穂高連峰、孤高を誇る笠ヶ岳、振り返れば木曾御嶽の英姿が見事だった。

眺望を楽しんだ後、往路を引き返し10時15分、豊平帰着。帰りは白骨温泉まで歩いて下りることにした。2万5千分の1の地図に記された点線路を信じて、硫黄岳、十石山を経て白骨温泉に至る経路を選んだ。豊平から桔梗ヶ原をスカイラインに沿って歩き、大丹生岳東側から車道を離れて硫黄岳に向かう。あまり通る人がいないのか、ルートはかなり荒れている。クマザサをかき分けかき分けの箇所も多い。しかも長い道中は間断のない登り下りの連続。さすが日本百名山、この山の大きさを改めて実感した重労働下山だった。白骨温泉にようやくたどり着いたのが午後4時だった。



山頂からの槍・穂高



山頂からの木曾御嶽